

キャンパス植物のご紹介

2020.4.17



スイートアリッサム(左写真) アブラナ科
Lobularia maritima (ロブラリア マリティマ)

春の花壇に欠かせない、半耐寒性の一年草です。本来は多年草ですが、夏の暑さに弱く一年草扱いにしています。草丈が低く、花壇の縁取りなどによく使われます。アブラナ科に特徴的な4枚の花弁が十字状についています。花には良い香りがあります。



非常によく似たものに**イオノプシディウム**(右上写真) *Ionopsidium acaule* (イオノプシディウム アカウレ) があります。もうほぼ終わりが

けていますが少し残っていたら観察してみてください。同じアブラナ科で12月頃から5月頃まで長く開花します。夏は枯死し、こぼれ種で毎年出る丈夫な植物です。

右下写真は両者が隣同士に生えている写真です。



ハナニラ *Ipheion uniflorum* (イフェイオン ウニフロム) ネギ科

丈夫でよく殖える球根植物。早春に可愛い花がキャンパス内のあちこちに見られますが、まもなく開花は終わります。名前のように葉にニラ臭がありますが、花を食べる野菜の花ニラとは別物で、これは有毒ですので絶対に食べないでください。白、淡い青、ピンクなどがあります。



ネモフィラ *Nemophila menziesii*

(ネモフィラ メンジーゼー) ムラサキ科

茨城県の国営ひたち海浜公園の一面に咲くムスカリは海外でも有名になり、開花期には観光客がたくさん訪れるスポットになっています。大阪まいしまシーサイドパークも今見頃ですが、今年は残念ながらコロナで休園！

①は最も多くみられる‘インシグニスブルー’、②は白に細かい斑点がある‘スノーストーム’、③は濃紫に白い縁取りのある‘ペニーブラック’、④はシルバーリーフの‘ブラチナスカイ’、⑤は別種マクラタ *Nemophila maculata* です。⑤は昨年写真です。ネモフィラにも色々品種があります。



シャガ *Iris japonica* (イリス・ヤポニカ) アヤメ科

本州以南の各地の林の中などに群生します。古い時代に中国から入った帰化植物で、日本にあるものは3倍体で種子ができません。葉は常緑のやや照りのある幅広い線形。あまり日向より、やや薄暗いくらいの方がきれいに育ちます。外側のきれいな模様の付いた3枚は元々萼片だった外花被、内側の立ち上がった3枚は元々花弁だった内花被といいます。中心近くに糸状のひらひらしたものがめしべの柱頭で、その根元あたりにおしべがあります。アヤメ科はこのような作りのものが多いです。花は1日花で終わったら花弁がくるくると巻いたようにしおれます。蕾が次々と咲くので、しばらくは開花が見られます。



キンセンカ *Calendula officinalis* (カレンデュラ オッフエキナリス) キク科

日本では仏花として切り花生産がおこなわれており、淡路島も産地です。

また、薬用やハーブとしても利用されます。学名の *officinalis* は薬用のという意味で、多くの植物につけられています。

花びらがたくさんあるように見えますが、タンポポやヒマワリなどのキク科の花の特徴で、1枚1枚が一つの花で、たくさんの小は花(しょうか)が集まって、一つの花のようにできています。

鮮やかなオレンジ色が多いですが、黄色やブロンズ、クリームなどの色もあります。キャンパスにも写真のようにいろいろ品種を植えています。カレンジュラ、ポットマリーゴールドなどとも呼ばれます。



シバザクラ *Phlox subulata* (フロックス スブラタ) ハナシノブ科

日本各地で一面シバザクラの観光スポットが見られます。

当校にはほぼこの品種しか見られませんが、白から濃ピンク、うす紫や花に筋模様が入ったものなど、多くの品種があります。

今年はやはり早く開花しております。

名前の通り、葉は一見芝生みたいな感じで、花は花弁の先が割れていて桜の花のようです。グランドカバープランツとして、花修景ランドスケープでもよくつかわれますが、除草や株の更新などの手入れが必要です。

見られる場所マップ

2020. 4. 17

- ・示した場所以外にもあちらこちらに見られる種類もあります。
- ・気温が上がると一気に花が進んで終わってしまう場合もあります。
- ・開花が進んでいる種もありますので見たい方はお早めに。
- ・緑色の印はキンセンカです。

